

2025年3月号

平素は工業会の活動にご理解とご協力賜り誠にありがとうございます。

徐々に厳しい寒さも和らぎ、春の陽気を感じられるようになりました。皆様いかがお過ごしでしょうか？
今月号は台湾MOU、安全体験研修、技能試験、再資源等高度化法、技術品質委員会、理事会報告についてご案内いたします。

《台湾バイオマス協会とのMOU締結》



■当工業会は2025年2月20日に台湾生質能技術發展協會（台湾バイオマス協会）と協力合意書（MOU）を締結しました。2023年7月から交流を開始し、同年11月には当工業会が台湾へ研修・視察見学で訪問、
2024年7月には台湾バイオマス協会が来日しバイオマスコンベンションに合同参加する等の交流を行ってまいりました。
この度、両会のRPF/SRFの普及や課題に取り組む方向性が一致し、共同ワークをしていこうとの意向から本協力合意書(MOU)の締結に至りました。

尚、調印式・基調講演は台湾大学のキャンパス内の大会議室において、日本台湾交流協会服部崇副代表、産業廃棄物処理事業振興財団の岩田元一専務理事、台湾政府からは環境部・経済部の担当者をお迎えし盛大に開催されました。同工業会からは三輪会長をはじめ総勢9名が参加、バイオマス協会からは25名が参加致しました。

本協力合意書（MOU）の趣旨・目的は下記の通りです。

- ・日本・台湾におけるRPFを含めたバイオマス燃料関連情報交換プラットフォームを構築し、情報交換等の交流を行う。
- ・両会が開催するイベント等への講師・オブザーバーの派遣等を行う。
- ・両国のバイオマスエネルギー政策を推進するための意見交換を行い、国内外の関係団体や規制当局への共同ワークを行う。
- ・将来的に共同で課題・テーマを設定し、研究活動を模索する。
- ・両会のRPFを含むSRF事業の発展に寄与すべく、協力する。

調印式の翌日には達清環保企業股份有限公司（SRF製造工場）と大園汽電共生股份有限公司（バイオマス発電施設）を視察しました。両社共に台湾最大規模の施設です。台湾が脱炭素の流れに呼応しSRF事業に注力し、バイオマス発電等を力強く推進していると感じました。

今後、海外事業支援委員会としましてはMOU締結を機会として台湾バイオマス協会との連携を図ってまいります。正会員様・賛助会員様におかれましては、台湾との交流の一助になればと思います。

交流に関するお問い合わせがございましたら、事務局までご連絡ください。

《安全衛生委員会企画の安全道場への参加》

RPF処理事業は他事業と比較すると、労働災害の発生割合を示す度数率、強度率という数字から見ても災害は多い状況です。そうした中、安全衛生委員会では、誰もが安全で安心して働ける災害のない職場づくりに向け、安全活動の推進・強化に取り組んでいくことの一翼を担えればとの思いで、安全体感体験研修を企画・実施しました。

埼玉県川口市のTOPPAN研修センターで開催している「安全道場」への参加方式で、2月4日・18日、3月4日・18日の4回に渡り定員40名の募集に対して満席の応募を頂きました。

安全道場では、30項目の体感施設が設置されておりますが、今回は業界として重要と思われる19項目を選択し3時間の研修を行いました。

研修内容は「挟まれ・巻き込まれ体感機」ではローラーに引きずり込まれる様に手が巻込まれる体験・プレス機に手がつぶされる体験・回転体の間に割り箸を差し込み巻き込まれた際の衝撃と怖さの体験を行い、実際に自分で経験する事により安全への意識が向上されました。

「安全装置」「保護具」「防火・防災関連用品」などの紹介においては、実機の説明だけでなく、正常な動作・運転を逸脱した場合でも安全を確保する安全機構の教育もして頂きました。また通常使用している軍手や安全靴、カッター等の不安全状況説明により、適切な使用方法の重要性を再認識できるだけでなく、どのような対策が必要であるかといった教育までして頂きました。

更にTOPPAN道場の特色である「安全VR」ではヘッドマウントディスプレイを着用し、事故の怖さや危険性をバーチャル映像でリアルに体感します。コンベア挟まれ災害やカッターによる起こりえる災害、ローラー挟まれ災害では被害状況まで確認でき従来以上に危険を体感することができました。VRにより危険予知能力を身につけ、労働災害を未然に防ぐ効果があると認識しました。

「安全道場」参加により、災害発生メカニズムとして「人」「設備」「管理」「作業環境」の4つの視点から見直し、「不安全状態」「不安全行動」とはどういう時に発生するのか、実技指導で学ぶことができました。これにより危険に対する感受性向上を図ると同時に、自職場の改善に活かせる内容となっております。今回は安全衛生委員会事業の一環でTOPPAN安全道場（埼玉・川口）の参加でしたが、安全道場は兵庫・福岡・群馬・滋賀でも開催されています。基本的には誰でも参加できますので、労働災害ゼロに向けた活動の一環としてご活用をお勧めします。



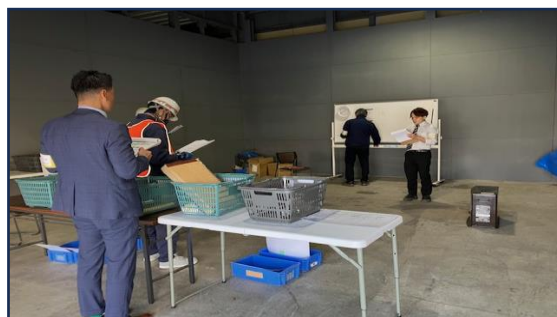
《外国人技能実習評価試験について》

外国人技能実習制度・RPF製造におきましては、昨年12月より遂に専門級試験の実施が開始されました。今年度の専門級試験は昨年12月以降、東日本会場にて2回、西日本会場にて3回、九州会場にて1回、計6回実施され、総受検者数は43名、合格者数は41名という結果でした。

多くの実習生の方々が大変良好な成績で合格されており、各受入れ企業様の職場では貴重な人材・戦力としてご活躍されている事が推察されます。

4月以降、来年度の試験実施につきましては 初級試験2回、専門級試験5回が既に予定されています。

毎回、試験監督官としてご協力頂いております正会員企業各社の皆様には、改めまして厚く御礼申し上げますとともに、来年度も引き続きご協力を賜りたく、この場をお借りしましてお願い申し上げます。



《再資源化高度化法の勉強会実施》

3月18日、東京にて環境省 松田廃棄物規制課長にお越し頂き、高度化法の勉強会を会員向けに開催しました。当日は用途開発委員会主催の勉強会と合同という事もあり、会場は多くの会員様が参加頂き、オンラインで聴講頂いた会員もいらっしゃいました。

松田課長からは、最初に「この業界を発展させていく為に策定した。廃棄物規制課という規制という言葉が好きではない。過去には適正処理の観点から必要だったかもしれないが、現社会においては規制ではなく、より合理的な資源循環を進める施策が必要だ。」という高度化法を策定に至った想いを伺うことができました。

高度化法においては、水平リサイクル、高度な剥離・分離、低炭素型の高効率な施設設置と大きく3類型に分けた推進策を練られていくとのこと。その中で、RPFはいわゆる製品であり、高度化法における認識は「再資源化に該当する」という事をお話頂きました。今後、RPF製造事業者に期待することとして、AIやIoTを用いた高度な選別技術を導入し、マテリアルリサイクルやケミカルリサイクルに適した廃棄物と、RPF化が適切な廃棄物を効率的に選別することや、塩素が一部含まれる廃プラスチックをRPF化する技術やシステムの確立をして欲しいとの事でした。今年11月には大臣認定の具体的な要件、フローも開示されるとの事です。当工業会にとって大きな変化であり、チャンスだと伺える内容でした。



《用途開発委員会》

上記の環境省による再資源化高度化法の勉強会と同日に、用途開発委員会勉強会を開催しました。勉強会のテーマは、脱炭素化の推進のためにRPF業界を取り巻く事業環境を把握し、今後の取り組みの一助にして頂けるような内容となっていました。

また、今年度発足したCP研究分科会により、現状の動向から今後の推察の発表もおこないました。

1) RPFに係るカーボンプライシングの動向

講師：株式会社関商店 RPF 企画開発 部 吉武 和広 氏（※講演資料提供可能）

2) 自家太陽光発電力の積極的な活用による RE100 達成方法

講師：阪和興業株式会社 新規事業推進室 吉田 浩久 氏

3) 「お金の掛からない脱炭素方法」 カーボンフリー電力の調達

講師：レジル株式会社グリーン電力事業部営業 向 龍生氏

尚、当日受講が適わなかった方でご興味のある内容がございましたら、事務局に問い合わせください。

また、勉強会終了後に現地参加者で用途開発委員会の全大会を行い、今年度の委員会活動報告と次年度活動計画等について話し合いも行われました。

《技術品質委員会》

1月31日にオンラインにて、技術品質委員会第12回勉強会が開催されました。講師は下記3名に登壇頂きました。

- ・ TOYOTA 自動車株式会社
先進プロジェクト推進部 AD-ZERO 主任 三村 健志朗 様
- ・ 株式会社アーステクニカ
営業総括部 関西支社 主任 海野 貴裕 様
- ・ ウエノテックス株式会社
東京営業所 楠本 隆裕 様

TOYOTA三村様からは、データサイエンスを用いた「Domatics」というサービスについてご紹介頂きました。従来効率化や省人化が難しいとされていた、土間選別工程に対し、データ取得、解析・分析、考察・検討、検証・確認を行い、効率的な人の配置や動線管理を行うツールです。具体的には土間選別の様子を専用カメラで撮影し、データを蓄積することで全体最適を見出す商品です。廃棄物処理業界でも導入が進んできており、今後排出元ごとの荷物の組成把握や、データ分析をもとにした設備開発・導入が期待できる内容でした。

続いてアーステクニカ様からはRPF製造に向けた設備紹介がありました。2軸破碎機、1軸破碎機、RPF成型機、塩素除去を目的とした光学選別機などをご紹介頂きました。最後にウエノテックス様からは省人化や選別精度向上が期待できる新たな製品紹介がありました。破碎機やホッパーに自動で投入してくれるクレーンや、手選別工程においてプロジェクションマッピングの技術を用い、視覚で判別しにくいアイテムを色付けして選別が行えるといった物です。こういった最先端の技術を導入する事により、業界全体の高度化や効率化が期待できると気づかされる勉強会となりました。

《理事会報告》

令和7年2月27日に東京にて、理事会が開催されたことを報告します。次第は下記の通りとなります。

- ・ 13回定時社員総会について
- ・ 再資源化高度化法におけるRPFの見解について
- ・ 理事会開催回数の増加について
- ・ 特定技能の協議会への入会について
- ・ 工業会パンフレット/HPの改定案について
- ・ 令和6年度の実績概要について
- ・ 会員の入退会状況について
- ・ その他

再資源化高度化法におけるRPFの再資源化に該当するというニュースは当工業会にとって大変喜ばしい内容で御座います。5月開催されるNEW環境展に工業会として出展し、広く告知していこうと考えています。

ご来場の際は是非工業会ブースにお立ち寄りいただけますと幸いです。

【編集後記】

本号では多くの委員会、工業会活動を記載させていただきました。まもなく新たな年度となり、会員企業様も新たな門出になることかと存じます。引き続きNEW環境展への出展、総会と大きな活動が控えておりますので、今後とも工業会活動へのご理解、ご協力をいただけますと幸いです。ご安全に！

（文責；総務広報委員長 平林 正幸）